



人生を楽しむ



国 籍 インドネシア
職 種 介護
実習実施者 医療法人社団晃進会
監理団体 Jプロネット
協同組合

タンティ ソピア ヌルチャヤティ
TANTI SOPIAH NURCAHYATI

私はもう3年以上病院で介護の仕事をしています。病院で働くのは、楽な仕事ではないです。たくさんの人とかかわって、病気から回復していく患者さんも、亡くなる患者さんも対応して看届けなければなりません。

でも、大変な事ばかりではなく、たくさんの大切な事を学ぶことができました。その中の一つは「人生を楽しむ」です。

ある時、病気なのに笑顔で元気に見えるように生活している患者さんがいました。家族が面会に来た時も体のことを心配されたくないのので、いつも「パパ、大丈夫だよ。」と笑顔で言っていました。でも、命はいつまで続くか誰にも分かりません。

次の日、その患者さんは急に体調が悪くなって天国に逝きました。ご家族は深く悲しました。

でも私は、「病気と戦っていても最期まで笑顔で人生を楽しんでいて本当に偉い人だ。」と思いました。

十二月の初め、突然私の家族から電話がありました。「パパは亡くなりました。」と悲しみの声が聞こえました。すぐ涙が出てきて止まらな

かったです。

私は技能実習生なので3年間帰国できませんでした。亡くなるその日まで、父の抱えていた病気を知らされなかったのです。父の病気に気付くことができなかったのです。悔しさばかりがつのりました。本当に辛かったです。

でも私は、高校生の時に父に聞いたことを思い出しました。十〇年後どうなるか、ということ聞いた私に、父はこう答えてくれました。「未来は誰にも分からない。何より大切なのは、人生を楽しむこと。その楽しみ方とは、自分のために走り続けて人生を楽しむか、または、誰かの幸せを自分の幸せと考えるように生きて、人生を楽しむか・・・。

この言葉を思い出して、私が悲しみ嘆いても、時は動くのだと気付きました。悲しいけど、今からもっと進まなきゃいけないと思いました。

父は最期まで笑顔で頑張って働いて、家族を愛し家族に愛されて、楽しい人生を送りました。家族の幸せを自分の幸せと考えて・・・。

患者さんは最後まで明るい笑顔で、ポジティブな言葉で病気と戦って、人生を楽しいものにしました。家族の幸せが自分の幸せだと思って・・・。

今こそ私のチャンスです。患者さんがどんな状態になっても対応できるように、継続して学び、患者さんに頼りにされる介護をしたいと思います。父のお世話ができなかったので、その代わりとして、患者さんを自分の家族のつもりで精一杯、介護したいと思います。患者さんの喜び・幸せは、私の喜び・幸せです。「お父さん、患者さん、ありがとう。これから私は介護の仕事を頑張って、喜びを得て、人生を楽しいものにします。」